

市営バス経営戦略（現行版）

主要な具体的取組

【基本戦略】	Ⅰ 安全・安心な運行サービスの提供
【個別戦略】	① 安全対策の強化
【具体的取組】	(1) 安全運転研修の実施

乗務員研修の深度化

- 「高槻市営バス人材育成方針」に位置付ける教習制度の構築
 - ・ 「高槻市営バス人材育成基本方針」に沿った乗務員教育の拡充を目的として、阪急バスへの教習参加や意見交換の知見を活かし、交通部に取り入れる研修内容について検討を行った



フォローアップ研修の実施
出典：阪急バス 安全報告書2024年度版（抜粋）



二段階バックの推進
(出典：阪急バス 視聴覚教材)

■ 今後の展望

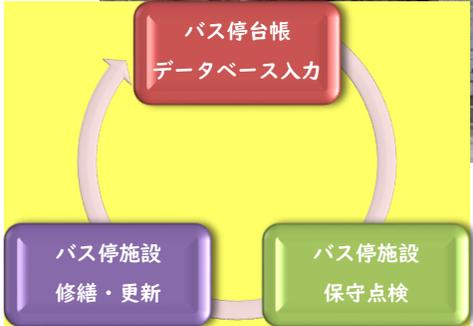
- ・ 現行の乗務員教習の拡充を進めるとともに、新人教習のあり方について検討する。



【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	② 利便性の向上
【具体的取組】	(1) バス停留所の利便性・快適性向上

バス停留所の適切な維持管理

- データベース化したバス停留所台帳の活用
 - ・ 現況写真・位置図・施設整備に対する要望などを取りまとめたバス停留所台帳のデータベース化を完成。バス停留所施設（上屋・ベンチ等）の適切な維持管理を行い、老朽化したものについては計画的な更新によって安全性の向上を図った
 - ・ 照明設備については蛍光灯が令和9（2027）年末までに製造・輸出入が禁止されるため、順次LED化を実施中



バス停台帳データベースの活用による維持管理
(写真は老朽化した上屋を更新した寺谷町バス停)

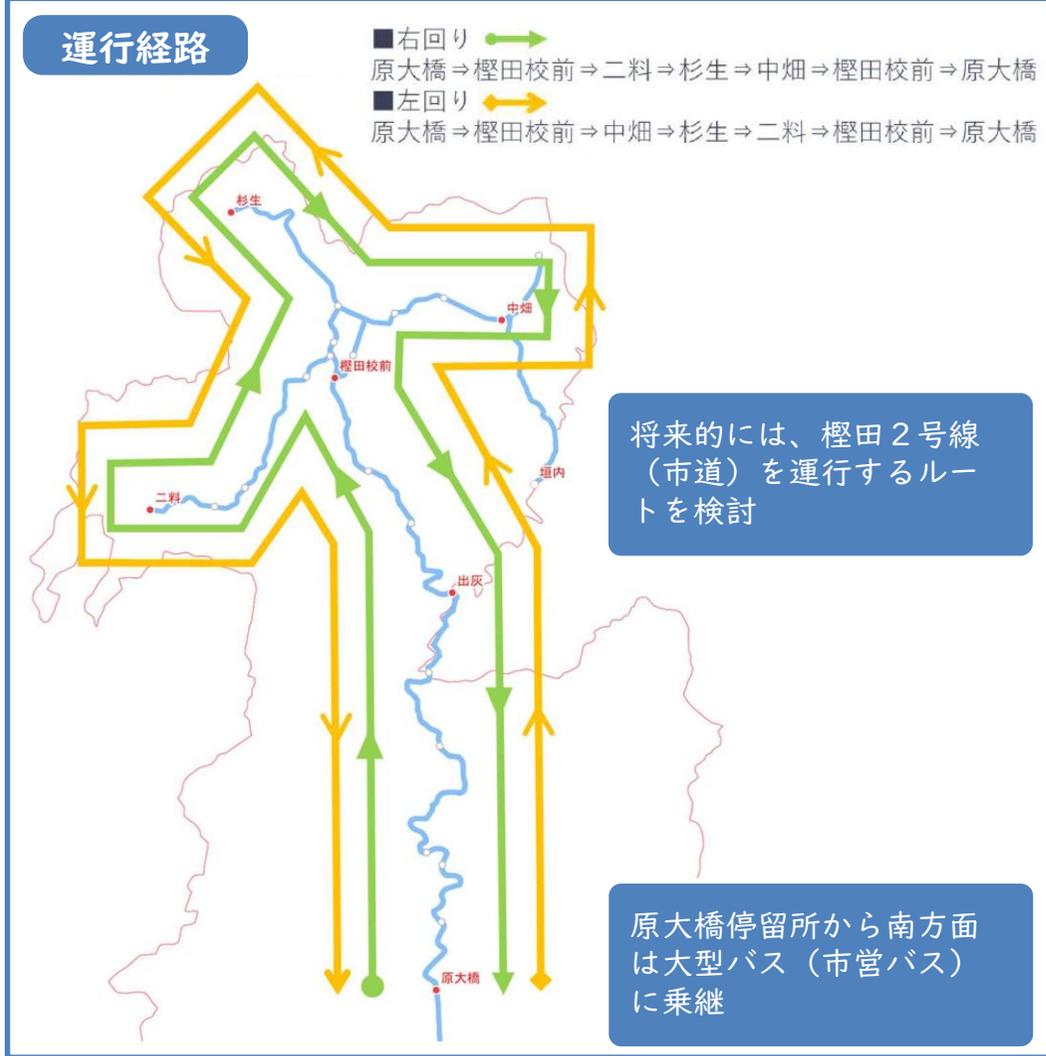
■ 今後の展望

・ データベースを活かして計画的な施設の維持管理を行い、適宜・適切にデータを更新する。

【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	② 利便性の向上
【具体的取組】	(6) 交通需要や市民生活に即した路線再編及びダイヤ適正化 (1/4)

「山間3路線（田能線）」における適切な交通手段の導入 (1/3)

- 【令和6年度までの検討経緯】
- 令和2年度に策定した「市営バス経営戦略」の中に山間3路線（田能・萩谷・川久保）の見直し検討を位置づけ
 - 市の交通政策担当部局と連携し、檜田地域等の自治会や住民との意見交換やアンケート調査を実施
 - 檜田地域住民から地域内を循環できる公共交通の運行を求められてきたことから、右図に示す運行経路を検討
 - デマンド交通の事業主体は、交通部・都市創造部とし、運行主体（運行パートナー）は、車両及び運転士の手配を担う交通事業者を検討
 - 檜田小学校が特認校のため、大型バス（市営バス）を利用して通学する児童が多いことから、登下校時の大型バス運行は継続（3往復/1日）
 - その後、継続的に意見交換を重ね、市営バス田能線沿線の檜田地域から、デマンド交通実証運行実施の要請を受ける



【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	② 利便性の向上
【具体的取組】	(6) 交通需要や市民生活に即した路線再編及びダイヤ適正化 (2/4)

「山間3路線（田能線）」における適切な交通手段の導入（2/3）

【榎田地域における令和7年度の検討経緯】

- ① デマンド車両予約配車システムの導入及び車両の運行委託をプロポーザル方式で一般公募し、それぞれ、池田泉州エリアサポート（株）（チョイソコ）、日本交通関西本部（株）を選定
- ② 当該デマンドバス事業に親しみをもち、地域が主体的に取り組んでいただくことを目指して、榎田小学校の児童に「愛称」を募集。選考の結果、地域を楽（ラクー）に移動できる交通手段となるようにという思いから、「かしらく号」に決定
- ③ デマンドバス車両による予約及び乗車体験デモンストレーションを実施。その後、全体説明会及び意見交換会を開催
- ④ 榎田地域から第九中学校に通学している生徒の保護者に対して説明会を開催
- ⑤ 主に榎田地域外から榎田小学校に通学している児童の保護者に対して説明会を開催
- ⑥ 「田能、杉生、二料、中畑、出灰」の各地区ごとに、利用者登録及び予約方法の説明会を開催。それに加えて、榎田支所で個別説明会を開催



かしらく号（ハイエース：10人乗り）

【基本戦略】

2 快適で質の高いサービスの提供

【個別戦略】

② 利便性の向上

【具体的取組】

(6) 交通需要や市民生活に即した路線再編及びダイヤ適正化 (3/4)

「山間3路線（田能線）」における適切な交通手段の導入 (3/3)

【その他デマンドバス運行上の留意点】

①乗継拠点における待合所整備及び原大橋バス停の移設
 「かしらく号⇄市営バス」の乗継に伴うバス待ち環境の向上を踏まえ、原大橋バス停北側のバス回転場に待合所を設置
 デマンドバスと市営バスとの乗り継ぎアクセス向上のため、市営バス原大橋系統を延伸



②運行ダイヤ及び運賃設定
 既存の市営バス運行ダイヤを踏まえたデマンドバス運行ダイヤを設定
 運賃設定も現行と同水準とし、市営バス福祉乗車券や市営バス定期券等も使用可能とした

系統図・運賃表

二科	中畑回転場	100円
二科山荘	中畑	100円
大谷橋	中畑西	
田能西乗	中畑口	120円
榎田郵便局前	榎田校前	
	田能口	130円
	森林センター前	
	出版	100円
	空谷橋	
	つるが谷	100円
	不二が原	
	原崎石塚	100円
	三島の郷南	
	原大橋	

予約制乗合バス
 運賃は先払い
 お支払いは現金

運行エリアを4つのエリアに分け、運賃はエリア運賃の合計となります。
 ※市営バス高年齢者無料・割引乗車券、おひびき障がい者無料乗車券等もご利用できます。
 (上記の乗車券の利用の際は、ICカード番号の登録と乗車券の乗車券表示をお願いします)
 (ICカード番号の登録は「乗車券の利用者登録」のみ実行しております)
 ※市営バス定期券は、券面に記載のあるバス停のエリアまでご利用できます。
 ※「原大橋～JR高槻駅北」の区間は別途大型バス運賃220円が必要となります。
 ※詳しくは高槻市営バスのホームページをご確認ください。

③「市営バス公式LINE」の開設
 デマンドバスの予約が可能な「市営バス公式LINE」を開設

たかつき デマンドバス
 がしらく号
 地域をはしる。予約制乗合バス
 高槻市 高槻市営バス
 予約する

【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	② 利便性の向上
【具体的取組】	(6) 交通需要や市民生活に即した路線再編及びダイヤ適正化 (4/4)

「山間3路線」における今後の検討スケジュール（案）

① 檜田地域

年度	取組事項
令和7年度	○利用者アンケート調査を踏まえた改善点の検討
令和8年度	○令和7年度の検討結果を踏まえた対応 ○地域の意向等を踏まえた実証運行の評価 ○令和9年度の運行方法を決定
令和9年度	○令和8年度に決定した運行方法を実施

② 萩谷地域

年度	取組事項
令和7年度	○関係機関協議及び意見交換の実施
令和8年度	○デマンドバス実証運行の検討 ○住民説明会の実施

■今後の展望

- ・檜田地域の実証運行について、アンケート調査や意見交換により、運行計画等の改善を検討する。
- ・山間3路線の他地域（萩谷・川久保）における意見交換を引き続き、丁寧に行う。

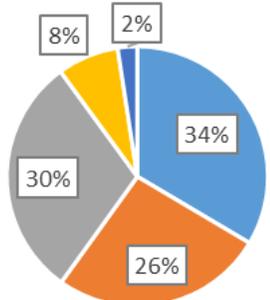
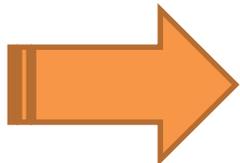
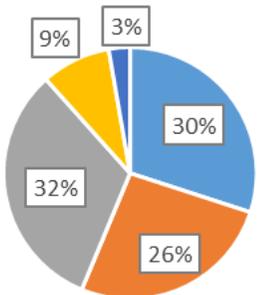
【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	④ 顧客ニーズの的確な把握
【具体的取組】	(1) アンケート調査等の実施

高槻市営バス 利用者アンケート調査の実施

- 令和7年度は、市営バスの子育て施策や運転士の評価などに絞って利用者アンケートを実施
- 2か月間のWEBのみでの無記名式アンケートにも関わらず有効回答数が868となり、市営バス事業への関心の高さが表れた

【前年度】 運転士の運転・接客等に対する評価

【今年度】 運転士の運転・接客等に対する評価

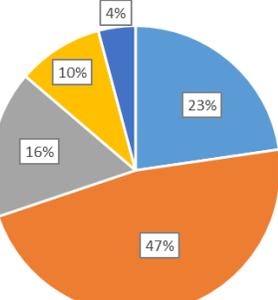
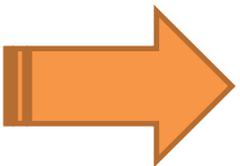
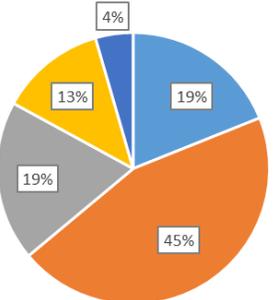


■ 良い ■ やや良い ■ 普通 ■ やや悪い ■ 悪い

■ 良い ■ やや良い ■ 普通 ■ やや悪い ■ 悪い

【前年度】 市営バス全体の満足度

【今年度】 市営バス全体の満足度



■ 大変満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満

■ 大変満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満

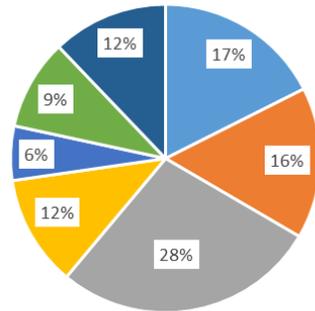
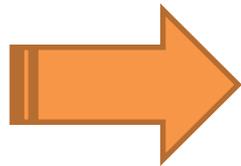
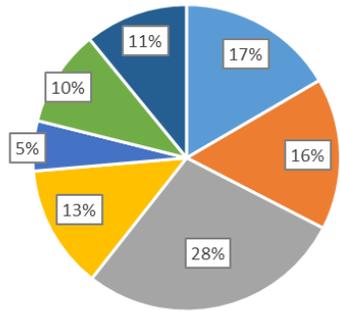
「運転士の運転・接客等に対する評価」、
「市営バス全体の満足度」ともに改善

【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	④ 顧客ニーズの的確な把握
【具体的取組】	(1) アンケート調査等の実施

高槻市営バス 利用者アンケート調査の実施

【前年度】 今後の市営バスに望むこと

【今年度】 今後の市営バスに望むこと



- バスを利用しやすくするための情報発信の充実
- 路線の拡充
- 運行本数の増加
- バスやバス停のバリアフリー化
- 運賃の値下げ
- 割引乗車制度の拡充
- その他

- バスを利用しやすくするための情報発信の充実
- 路線の拡充
- 運行本数の増加
- バスやバス停のバリアフリー化
- 運賃の値下げ
- 割引乗車制度の拡充
- その他

今後の市営バスに望むことについては、運行本数の増加が最も多く、上位3項目は前年度と変化していない

※（複数回答可）

※（複数回答可）

- <主な自由意見>
- 「公営バス事業を維持してほしい」
 - 「運賃値上げをしてでもダイヤを増便してほしい」
 - 「高齢者福祉乗車制度を有料化したほうがよい」
 - 「引き続き、無料制度を維持してほしい」
 - 「運転士ごとに運転技術や接客態度に差がある」
 - 「ベビーカーでバスに乗りづらい」 ほか

■ 今後の展望

・令和7年度に実施した利用者アンケート調査を踏まえ、経年的な傾向を把握するための定期的なアンケート調査の実施を検討する。

【基本戦略】	2 快適で質の高いサービスの提供
【個別戦略】	⑤ 効果的な情報発信とブランド力の向上
【具体的取組】	(2) 市営バスのファンを増やすためのイベント企画や参画

全国公営バスでは初めての事例となる「こども運転席」の設置

- 子どもたちが市営バスに乗るきっかけづくりの一環として、公営バスでは全国初となる「こども運転席」をたかつきばすお号（芝生、緑が丘営業所各1台）に設置した
- 運転士が見ている光景をリアルタイムでモニターに表示し、メーターパネルやドア開閉スイッチなどは実物を使用。普段は、一般の路線バスと同様の運行を行っている。
- 昨年11月の産業フェスタで実車を出展し、子どもを中心に市営バスに触れ合う機会の創出に努めた。当日も大変人気があり、終了時刻まで行列が途切れることはなかった



■今後の展望

・市営バスに乗ることが習慣づけられるような入口作り、きっかけ作り、話題性作りとして、運転士不足及び将来顧客の確保等を踏まえ、引き続き「たかつきばすお号」を活用したイベント展開を実施する。

【基本戦略】	3 まちづくりと連携したサービスの提供
【個別戦略】	⑥ 定住促進・子育て支援との連携
【具体的取組】	(2) モビリティ・マネジメントの体系化

ベビーカーを利用したバスの乗り方教室

- 子ども保健課の離乳食教室「ぱくぱく教室（対象：7か月～10か月頃の乳児とその保護者）」11月13日開催分の後に実施。ぱくぱく教室の応募者15組中、11組がベビーカー教室に参加（会場：子ども未来館）
- 隣接する安満遺跡公園の関係者駐車場に大型路線バスを配置し、実際にベビーカーでの乗車や車内での安全な乗車方法について体験教室を実施
- 当日のアンケートでは「本日の体験教室を通して市営バスを一度（もっと）利用してみようと思いましたか？」の問いに、全ての参加者が「はい」と回答され、好評を得た

高槻市広報誌「たかつきDAYS」10月号での募集告知と当日の様子

ID 029547 対 7～10カ月
ぱくぱく教室
 中・後期の離乳食の講話と保護者試食、保育士による手遊び
 場 高槻子ども未来館
 問 子ども保健課 / TEL 648-3272
 申 10/3(金)～11/6(木) (①は10/19まで) に HP で



- ①ぱくぱく教室
10/23(木)14:00～ (60) 。申込順18組
- ②ぱくぱく教室+市営バスの乗車体験教室
11/13(木)14:00～ (60) 。申込順24組
※乗車体験は希望者だけ15:15～



■今後の展望

・市の子育て支援施策と連携するなど、市営バスに乗ることが習慣づけられるような入口づくりに引き続き取り組む

【基本戦略】	4 経営基盤の強化
【個別戦略】	⑨ 人材の確保・育成と組織力向上
【具体的取組】	(1) 運転士の確保

2024年問題を踏まえた運転士確保の取組

- 運転士確保に向けた、採用試験の計画的な実施と広報活動
 - ・ 年間採用試験実施計画を公表し、運転士の安定かつ計画的な確保に向けて取り組んだ
 - ・ 昨年1月から開設した市営バスホームページの乗務員採用特設コーナーに、乗務員の勤務パターン動画を新たに公開するなど、更なる拡充を行った
- 大型二種免許未取得者を対象とした採用試験の開始
 - ・ 今年度から大型二種免許未取得者を対象とした説明会と採用試験を実施。説明会には新規大卒見込み者が参加するなどの反響があり、採用試験の結果3人を採用した

市営バス在籍運転士数の推移(各年度4月1日時点)

項目	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正職員	人	174	175	176	171	171	166	158	147	148	145
再任用フルタイム	人	0	0	0	0	0	0	0	7	5	4
再任用短時間職員	人	4	5	4	9	11	14	17	16	13	16
フルタイム会計年度任用職員	人	0	0	0	0	0	3	13	17	21	25
月額制会計年度任用職員 (R01年度までは非常勤職員)	人	75	76	71	69	60	58	49	44	47	42
時間額制会計年度任用職員 (R01年度までは臨時職員)	人	16	12	13	12	11	11	7	5	7	7
合計	人	269	268	264	261	253	252	244	236	241	239

令和7年度の新規採用状況と運転士総数
(令和7年12月末時点)

採用試験 実施回数	大型二種免許 保有者	大型二種免許 未取得者
	3回 (4, 8, 12月)	1回 (7月)
応募総数	20人	3人
採用人数	10人	3人
運転士総数 (令和7年 12月末)	242人	

■今後の展望

- ・ 令和7年度から開始した「大型二種免許取得支援制度」の効果や方向性を分析する。
- ・ 他のバス事業者が実施している運転士確保の手法を研究する。

【基本戦略】	4 経営基盤の強化
【個別戦略】	⑨ 人材の確保・育成と組織力向上
【具体的取組】	(3) 運転士グループワークの活性化

テーマを設けたグループワークの実施

- 運転士の各班（グループ）で、今必要であるテーマを設けて、班長・副班長が行っている安全への取組を共有した
- 令和7年度のグループワーク実施内容（抜粋）
 - ・ 車いす用スロープ版の格納場所、非常扉開閉方法の再確認
 - ・ 車内案内内容の共有（終点案内、車内転倒事故防止に向けた注意喚起案内）
 - ・ 降車されるお客様1人1人に対する「ありがとうございました」の励行 など

車いす用スロープ板格納場所



■ 今後の展望

・ 今後はグループワークの形骸化、マンネリ化を防止し、より実効性の高い取り組みとなるよう、複数のテーマを体系的に整理し、概ね3年を1周期とした計画的な実施を検討する。

【基本戦略】	4 経営基盤の強化
【個別戦略】	⑩ 効率的な経営・収支の改善
【具体的取組】	(2) 市営バス事業運営の効率化

市営バス事業の収支改善検討状況

● 未来を見据えた方針の決定

- ・今年度の取組として、今後の新たな投資の必要性等を踏まえ、令和8年度以降の方針を決定した
- ・AI技術やITツール等の活用により、スマートバス停の導入検討などお客様の利便性向上とともに、事業の効率性向上につながる取組を次期経営戦略に基づいて具体化させる



スマートバス停等の事例
(出典：YEデジタルホームページ)

■ 今後の展望

- ・市営バス事業の健全な経営環境の実現を踏まえ、今後、予想される新たな投資に要する費用の平準化と原資の調達を合わせて検討する。